



## 川棚温泉青龍太鼓芸能保存会

豊浦町川棚温泉に伝わる青龍伝説と、子どもたちへと受け継がれている青龍太鼓。今回は、「川棚温泉青龍太鼓芸能保存会」を紹介します。



▲山口ゆめ花博での演奏の様子(2018年10月)

青龍太鼓のもと  
大人と子どもが  
笑顔で共演

いにしえより伝わる青龍伝説

青龍伝説の始まりは、およそ1400年前にさかのぼります。一大沼地だった川棚には、一匹の青龍がすんでいました。ところが、大地震により亡くなってしまいました。哀れに思った川棚の人たちは、青龍権現として神に祭りしました。霊を慰めるために神前で太鼓を打ち鳴らすと、青龍のすんでいた跡から温泉が湧き出したと伝えられています。青龍太鼓は、温泉を残してくれた青龍への恩返しとして、地元の有志に受け継がれています。

川棚温泉まつりでの熱演



川棚温泉青龍太鼓芸能保存会の現在のメンバーは、大人11人、子ども14人の総勢25人で構成され、週に1回練習をしています。川棚温泉まつりなどの祭りや、イベント、ショッピングセンターでのステージに出演しています。昨年は、山口ゆめ花博にも参加し、迫力の演技で会場を大いに盛り上げました。今回は、川棚温泉まつりでの演技の様子取材しました。数十人、子どもも一緒にあって会場に運んでいました。和気あいあいと太鼓をセッティングするメンバー。先生というよりは、先輩のような関係で子どもたちと接しています」と代表を務める山崎さんは笑顔で話します。メンバーは、大人も子どもも基本的な下の名前呼び合ひ、友達のように話をします。ステージ前には、この日一番の多くのお客さんが集まっています。演奏が始まると、笑顔でおしゃべりをしていた子どもたちの表情が一変、大人びた真剣な表情を





# まちかどボイス

7月のテーマ  
この夏の目標！



▶大人と子どもの共演。大人顔負けの堂々たる演技を披露した子どもたち。「全く緊張しなかった」



◀山崎代表  
「親子や兄弟姉妹と一緒に参加するメンバーもいます。世代が異なる中で、お互いに楽しく、切磋琢磨しています」

▶センターパートデビューをした、颯大君(写真中央)。子どもたちのリーダー的存在です。テレビ局の取材などのプレッシャーがある中、見事な演技を披露。



見せます。この日は、「青龍太鼓」と「龍童」の2曲を演奏。大人と子どもが同じステージで共演し、大迫力の演技でした。

### 大人と子どもの異年齢交流

保存会は、数年前まで大人だけで活動していましたが、人手が足りないこともあり、子どもたちも参加するようになりました。子どもたちの参加を推し進めた山崎代表は、「世代の異なる相手と話をするのは純粹に楽しいです。今の子どもがどんなことに関心を持っているかなど、子どもから教わることも多いです」と話します。子どもたちも大人と触れ合うことで、大人との付き合い方を学んでいるように見えます。「会では遠征もあり

ますし、いろんな経験が子どもたちの役に立てばいいなと思っています」  
大人や先輩の演奏に感動して入会する子どもがいる一方、受験勉強のために中学生で引退する子どももいます。「大人になって、子どもたちが下関に就職し、会に戻ってきてくれたら嬉しいですね」と山崎代表は笑います。伝統を受け継ぐため、会の活動により一層力が入ります。

## 編集後記

■防災特集。「天災は忘れた頃にやって来る」という言葉。ずっと「天才」と書いて、10年に1人の天才現る、というような意味とと思っていました…。(わ)  
■躍動感のある人物写真を撮るため、鳩を撮影してみました。「鳩は動きが違うやろ」と皆につっこまれました。人間の撮影モデルさん募集中です。(ひ)  
■川棚温泉まつりの日は、天気予報で降水確率100%でしたが奇跡的に雨が降らず良かったです。祭りを満喫し過ぎて、既に来年が楽しみ。(き)

■フェイスブック  
<https://www.facebook.com/kawatanaonseiseiryudaiko/>  
■インスタグラム  
[https://www.instagram.com/seiryu\\_daiko/](https://www.instagram.com/seiryu_daiko/)  
「川棚温泉青龍太鼓」で検索を！